

IoT時代のモヤモヤを自宅で解消

ダウンロード・データあります

ご購入はこちら

メカニズム丸見え! ラズパイ AI サーバを作る

第16回 アマゾン/グーグルにも用意されている
クラウド重要機能「自動処理」

土屋 健

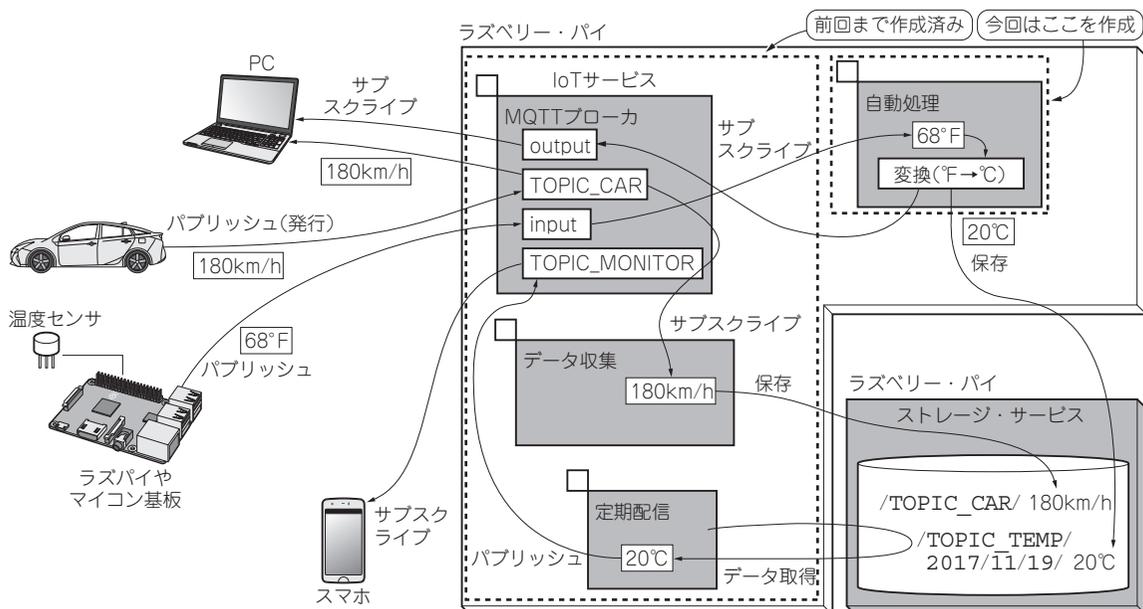


図1 Myラズパイ・クラウド・サーバで作るのはメッセージの自動実行

今回はIoTサービスの最後の要素となる自動処理を追加します(図1)。

今回の入力データは、ラズベリー・パイにセンサを接続して計測した温度データです。そのデータに計測日時の付与、温度の単位変換などのデータ加工を施した後、MQTTブローカへパブリッシュします。この流れの自動処理機能を構築し、動作の確認実験を行います。

自動処理の範囲は、入力されたデータを加工し、MQTTのブローカへパブリッシュするまでです。

今回つくる「自動処理」機能

● アマゾン「Lambda」グーグル「Functions」みたいなクラウド上の実行機能

Myサーバで実現する自動処理は、AWS (Amazon Web Services)、GCP (Google Cloud Platform)、Microsoft Azureなどのクラウド・サービスで提供されているLambdaやFunctionsに近いものです。

クラウド・サービスで提供されている機能は、仕様に従って実装した処理関数を登録するもので、サービスごとにさまざまな実装言語がサポートされています。逆に言うと、サポートされている言語でしか開発ができません。Myサーバは、実行コマンドを登録す